

令和4年度東京都立狛江高等学校学校経営報告

校長 池田克則

1 今年度の目標の成果と課題

目標1 (学習指導) 授業日の確保とクラウドサービスやオンライン教材を活用した教育の充実

ア 高校3年間に、生徒が体系的かつ効果的な学習を行えるよう、各教科・科目において「シラバス」に基づく年間授業計画を4月に策定し、週ごとの指導計画に具体化して計画的に授業を展開した。

今後、教養教育の推進と国公立・難関私立大学進学に対応できる学力の向上を目指し、より一層の充実を図っていく。

イ 授業時間の中で十分な学習できるよう、隔週で「土曜授業」を実施し授業時間を確保した。

ウ 2回目となる大学入学共通テスト等の分析・研究をさらに進め、その結果を1、2学年及び各教科で共有し定期考査等に新傾向の問題を出題した。さらに知識、技能だけではなく生徒の思考力・判断力・表現力やその土台となる読解力を伸ばす授業を各教科で十分に行うことが今後の課題である。

エ 英語教育推進校として、英語の4技能検定試験(GTEC)を実施して、生徒の現状を把握し、生徒の英語の4技能をバランスよく伸ばす授業を行うとともに、英語検定試験にも取り組んだ。

オ 模擬試験の事前・事後の指導にClassiの学習動画等を活用した。更なる活用により今後の指導に活かしていきたい。

カ 生徒が自ら主体的に設定した課題について仮説を立て、検証する。仮説検証型の探究学習を地域と連携して行った。今後、大学等の他、地域や各機関とも連携を充実させることが重要である。

キ Teams、Classi等のクラウドサービスの活用、学校作成の教材の配信やオンライン教材の提示等を行ない、自宅学習への対応をした。今後は、一人一台端末活用の充実を目指し、各教科の組織的な取り組みが課題となる。

目標2 (進路指導) 大学入学共通テスト等への対応

ア キャリア教育の充実を図るため、「キャリア教育全体計画」を策定し、全教育活動において取り組み実施した。志望大学や学部に応じた補講等の支援体制を整備して、総合的にキャリアプランニング能力を育成した。更なる組織体制の確立が今後の課題である。

イ 生徒が自己の進路目標を早期に確立できるよう、各学年2回の面談を実施した。また、高校3年生では、家庭と連携して生徒への支援を効果的に行った。

ウ 大学入学共通テスト、総合型選抜/学校推薦型選抜等に対応するために、大学入試制度に関する情報を収集し、生徒や保護者に提供した。

エ 計画的・効果的な夏期講習を早期に立案し、実施した。今後、講習の充実と動画配信等で生徒のニーズに応えることが今後の課題である。

オ 学力分析会や進路志望検討会等を実施し、各教科の授業改善に更に活用することが今後の課題である。

カ 他校の進学指導実践事例を研究し、校内研修に活かした。

目標3 (生活指導) 学校行事計画の見直しと生徒のメンタル面のケアへの配慮

ア 生活指導部や学年が中心となり、生徒と共に校則の見直しを行った。今後も継続して校則の見直しをしていくことが重要である。

イ 感染症対策に努めながら学校行事を実施することができた。生徒の安心・安全を第一に生徒の充実した学校生活を求め検討していくことが課題である。

ウ 生徒会主体で学校行事を行い、更に広報活動にも関わり好評だった。今後も、生徒の主体性を伸ばす指導を検討していく。

エ 盗難防止、交通ルール・情報モラル遵守、薬物濫用防止等の指導の徹底を図るセーフティ教室を実施した。

オ 保護者、家庭との連携し、いじめゼロ、不登校ゼロ、特別指導ゼロ、遅刻ゼロに取り組んだ。

カ 感染防止対策を行い、メンタル面で不安を抱える生徒のケアに努めた。

目標4（国際理解教育）国際交流の安定と継続・環境整備

- ア オーストラリアのキラウィ高校との交流は、実施できなかったが、マレーシア大使館訪問、イングリッシュユースコートを行った。
- イ 海外修学旅行に向けて中国語講座を実施し、台湾の台北市立大同高級中学校とハガキ等の交流を行った。令和5年度の海外修学旅行は、コロナ感染症の終息がみられず海外情勢も考慮し中止とし、国内修学旅行に変更した。
- ウ 東京コンシュルジェを利用した、国際理解教育を実施した。
- エ 国際協力NGOルマナイサモアと連携し、「わたしと世界をつなぐSDG s」の講演をオンラインで実施した。

目標5（特別活動、部活動）部活動の安全かつ効率的な運営

- ア 部活動を再開において、感染予防に努めながらスポーツ庁・文化庁・文部科学省及び東京都教育委員会が示すガイドラインに沿った活動計画を検討し、安全な部活動を運営した。
- イ 部活動は、活動中の事故防止に努め、特に夏季の活動時の熱中症予防に努めた。
- ウ 部活動顧問の配置については次年度を見越して、部活動指導員を幅広く活用し顧問に過重負担にならないように十分配慮した。
- エ 各部活動の取り組みや実績等について、ホームページ等を通して中学生、保護者や地域住民に積極的に動画発信し、啓発に努めた。部活動体験も感染症対策を講じながら実施した。
- オ 地域や近隣との交流は感染状況に応じて行った。

目標6（教育的諸課題への対応）その他の様々な教育課題への対応

- ア 主権者教育を計画的に実施し、生徒の理解啓発を行うと同時に公職選挙法違反等の未然防止に努めた。
- イ 芸術鑑賞教室は、感染予防対策を講じながら実施し、日本の伝統文化教育を推進した。
- ウ オリンピック・パラリンピック教育のレガシーとして、地域行事の企画に参加し（ボランティアマインド）、国際交流（豊かな国際感覚）を行うなどして充実させた。
- エ 特別支援教育コーディネーターとして、外部の研修に参加し、課題のある生徒の指導に活かした。
- オ 生命尊重教育の教育を推進するとともに、保護者との連携を深め、生徒の事故防止に努めた。

目標7（学校運営）安心・安全かつ安定的な学校経営

- ア 校内における新型コロナウイルス感染症予防対策について、生徒及び保護者に情報を公開し、安心・安全な学校経営の取り組みを努めた。
- イ 学校における働き方改革推進を進めるため、業務の効率化に努め、月の超過勤務時間が80時間を超える教員をゼロにすることに努め減少した。
- ウ 予算計画に基づいて、四半期ごとに執行状況を把握し、適正な予算執行を行い、自律経営推進予算を無駄なく活用した。
- エ 本校の特色を理解してもらうために生徒が参加する募集広報活動を充実させ、入試倍率を上昇させることができた。
- オ 感染症予防の取り組み
 - ・都の学校健康推進課、地域の保健所、学校医等からの指導助言に基づき感染対策に努めた。
 - ・生徒の登校は、通年時差登校を実施し、年間を通じて生徒の感染予防策を行った。
 - ・教室環境（換気、消毒、ソーシャルディスタンスへの配慮等）を整え、実技指導は、年間授業計画を見直し、指導工夫を行った。

2 重点目標と達成度

重点目標1 本校を第一志望とする生徒で、適切な入選倍率（一次、分割前期）を確保した。

- ・一次、分割前期入選で、1.6倍程度の倍率を確保することを目標に、募集広報活動を充実させ1.71の倍率となった。

重点目標2 生徒が、本校に入学してよかったと思える質の高い教育と満足度の高い学校生活を提供した。

- ・生徒の学校満足度87%、生徒の授業満足度80%であり、昨年の数値よりやや下回った。

重点目標3 生徒の学力を向上と進路実現。

- ・各学期に実施する模擬試験における、三教科・五教科の平均点偏差値の推移を通じて学力の伸びを把握したが、1月の数値は、7月の数値と比較して増減は見られなかった。
- ・理数教育の充実を図り、生徒に探究心を身に付けさせ、進路実現に役立たせることが今後の課題である。
- ・国公立大学への現役合格者を27名（+12名）難関私立大学（早稲田大学、慶応義塾大学、上智大学及び東京理科大学）13名（-2名）15名、GMARCH195名（-24名）であった。今後、さらに国公立を目指す生徒に最後まであきらめない指導が課題である。（令和5年3月24日現在）

重点目標 4 教職員の資質・能力の向上。

- ・情報セキュリティや教育相談等の職務課題に関する研修を年間5回程度実施し、OJTを推進して教職員の資質・能力の向上を図りサービス事故を再発防止に努めた。